

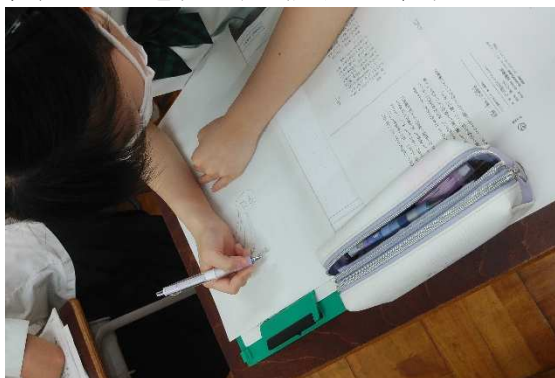
## 中学2年生対象に特別授業を行いました

令和6年7月25日（木）、本校13講義室Aと学習室ABで、武井秀行 先生（富士見中学校高等学校）と中村文隆 先生（国立天文台科学研究部）の特別講座を行いました。

### 〔武井先生による講座（国語）〕

#### 講座名 『質問』について質問しよう

「質問」と聞いて思いつく事柄をたくさん書く作業から始まりました。「謎、興味、話を深めるもの、課題、仮説、検証」と生徒は思いつくままに書き出していきました。そして、疑問と質問の違いを生徒の発言をもとに黒板に分類していきます。心に湧き上がるのが疑問で、言葉で表すのが質問。持つのが疑問で、行動するのが質問。自分だけで閉じているのが疑問で、他人を巻き込むのが質問、というように、じっくり考えてみると疑問は個人の中ですぐ生まれて、レベルが上がってくると質問になりそうなことが分かりました。次に質問をする目的を考えてみると、①分かることを増やすため、②相手を攻撃するため、③相手と仲良くなるため、というようなものが挙げられ質問力を高めることは価値がありそうです。そこで、いろいろな文章を読みたくさんの問いを羅列したり、重要な1つの問いに絞ったりする活動しながら、普段とは違う文章の読み方を経験しました。



### 〔中村先生による講座（地学）〕

#### 講座名 宇宙人はいるのか？

誰でも一度は考えたことがある地球外生命体の存在の有無ですが、それを科学的な視点から追究するのが天文学の第一の意義であるそうです。生命であることの条件は、膜をもつこと、エネルギーを代謝すること、子孫を残すことの3つを満たすことであり、その条件を満たす痕跡を探してきた歴史が紹介されました。金星や火星には人為的な操作が加えられた可能性のある物質や地形が発見され、それらを研究していくことで天文学は発展してきたことが分かりました。宇宙人の存在を探究するためのドレイク方程式の計算もその場で行いながら、人類の長年の謎が科学の探究につながるおもしろさを味わいました。

